

## 主 題：模範者

## 聖書箇所：テモテへの手紙第一 4章12節

I テモテ4：12「**年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。**」

私がここでメッセージをさせていただいたのは、去年の3月末の日曜日だったと思います。早いものでもう1年が過ぎようとしています。この1年間、いろいろなことがありました。神学校卒業、結婚、そして、出産と、出産は私がした訳ではないのですが、とうとう父親になりました。そして、父親になってから、周りの人たちに「まあ、ニタニタして…」とよく言われます。もう少し別の言い方はないのかなと思うのですが、子どもを見て自分の顔をチェックすると、確かにニタニタしてしまいます。私にとって与えられた子どもはとても可愛いです。けれども、子どもが生まれる前に夫婦でお互いに話していたことは、「生まれて来る子どもはどんなに可愛くても、その子は罪人だ。」です。また、生まれた後も「ひとりの罪人が生まれた。」と言いました。それゆえに、私にとって可愛い子どもであっても、その子どもに必要なことは主の救いです。私は神から託された子どもに救いを伝えなければいけません。そのことは私にとってどうしてもしなければいけないことです。恐らく、子どもをお持ちの皆さんには共感していただけることでしょう。どのようにして伝え、どのように教えて行くのでしょうか？それはことばをもって伝え、また、私自身の模範をもって伝えなければいけないことです。けれども、このことは単に自分の子どもに対してだけでなく、どの人に対しても同じようにして行かなければいけないことです。私たちは神を知らない人たちに、ことばと模範をもって、自分の生き方をもって伝えなければいけません。それだけでなく、教会の中においても、兄弟姉妹の間においても、同じことをしなければいけません。教会の中であろうと外であろうと私たちは同じことをするべきです。

特に、この時代にあって、私たちは神に従うことが困難になることが度々あります。そのような困難を感じている兄弟姉妹に対して、どのように歩むべきかということ、ことばをもって教え、また、模範をもって伝えなければいけません。当然、救われたばかりの人たちに対してはその通りです。具体的な模範が必要なのです。私たちは福音を語ることや、みことばを分かち合うことは比較的容易に出来るのではないかと思います。もちろん、苦手だと言われる方もおられることでしょう。けれども、模範をもって伝えることは語るよりも力があります。そして、模範をもって伝えることは語るよりも私たちに難しいのではないのでしょうか。なぜなら、先ほども言ったように、今の時代を考えたとき、主に従順に歩むというその模範を人々に示すことは、周りの人たちから反発を受けたり、また、それをさせまいとする誘惑があつて難しい時代です。このような時代の中で私たちは周りの人たちにどのように模範を示して行くべきか？そのことについて、今朝、みことばから皆さんとごいっしょに学んで行きたいと思います。パウロがテモテに教える模範について学んで行きますが、今日の箇所の文脈とその背景を簡単に見て行きます。

このテモテへの手紙第一の中で、パウロは若いテモテに対して、エペソにある教会をどのように牧会して行くのかということ、を教え指導しています。4章1節から見てください。「**しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。**」、「**後の時代**」になると益々世の中は悪い方向へ流れて行くことを教えています。「**後の時代**」とは「世の終わり」を指しているのではありません。パウロたちから見て近い将来のことです。テモテがこれから迎えようとしている将来のことを指しているのです。間違つた教えが広がって行き、人々はその間違つた教えに耳を傾け、信仰から離れて行く、そのような時代になると教えています。パウロはそのことをテモテに伝えるのですが、4：6で「**これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたはキリスト・イエスのりっぱな奉仕者になります。信仰のことばと、あなたが従って来た良い教えのことばとによって養われているからです。**」と言っています。つまり、「世の中は悪い時代になって行くけれど、その中であつて、テモテ、あなたは人々を正しく教えて行きなさい。」と言うのです。「人々は混乱し、間違つた方向へ進んで行く。だから、何が正しいのかをあなたがしっかりと教えなさい。」とパウロはこのようにテモテに勧めるのです。もし、テモテがそのように人々を教え、人々に命じて行くなら、「**あなたはキリスト・イエスのりっぱな奉仕者になります。**」とパウロは教えています。

けれども、テモテにとってやっかいな問題がありました。それは年が若いということです。なぜ、年が若いことが問題なのでしょう？若いと言っても、この当時は40歳位までの人を指していたようですが、年が若いということは、年配の信仰者、信仰の先輩たちから見れば、無秩序で自分を制することが出来ないゆえに、軽く見られ、疑いの目が向けられがちだったからです。さらに、エペソの教会の長老たちはパウロの指導の下で活躍していたベテランの方々ばかりでした。それゆえに、テモテは若かった

から、彼に対する信頼が十分でなかったということは大いに考えられることでした。パウロはテモテが人々を教え命じて行く上で、年が若いという問題を取り上げて、それを解決する方法を教えています。非難したり疑いをかけて来る相手を黙らせるためには、議論をしたり言い訳をするのではなく、最も効果的な方法は「模範」であること、「模範者になること」だと言うのです。なぜなら、人が言っていることと実際にしている行動とが矛盾しているなら、当然、その人は偽り者と見られます。信用するに値しないと見られてしまいます。だから、信用のない者、また、偽り者の発言は、周りから重要なものとは扱われないで、軽くあしらわれてしまいます。非難されると言ってもいいでしょう。ですから、パウロはテモテに「**年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。**」と勧め、そして、この後、どのように歩んで行くのかを教えているのです。ことばと行動が矛盾しているなら信頼をなくしてしまいます。そのことを考える時、これは年齢に関係なく、私たちがことばと行動とを一致させて行かなければいけないことが分かります。年が若いとか、年が上であるというのではなく、ことばとその行動は一致させなければいけないということを私たちは理解できると思います。テモテは人々に、ことばをもって真理を教え、模範をもって真理を伝えるなら、あなたは立派なキリストの奉仕者になると教えられています。同様に私たちも、キリストの働き人として、私たちの主人であるキリストに教会で仕え、仕事場で仕え、家庭で仕えて行かなければいけません。もし、私在家中で、ことばで言っていることと、していることが違うような生き方を続けて行くなら、私の子どもは私のことばに信頼を置かないでしょう。どんなに丁寧にみことばを語ったとしても、私のことばを重要だと思わないでしょう。むしろ、子どもは私を批判すると思います。私たちはどの場所にあっても、キリストの働き人として、主のみことばを自分のことばをもって、自分の模範をもって伝えて行かなければいけません。

そのためにも、私たちはパウロがテモテに教えているその模範を学ばなければいけないのです。それによって、私たちがどのような面で模範にならなければいけないのかということここから学び、そして、私たちがキリストの良き模範者となって行くことを願っています。

## ☆パウロが教える模範、どのような面で模範となるべきか？

### 1. ことば

ことばにおいて模範となるということです。それは私たちが日常語っていることばのことです。私たちはいろいろな機会に人と話をします。特に、教会では大勢の人が集まります。その中で私たちはいろいろな人と出会い、いろいろな話をします。教会だけでなく、私たちは仕事場にあっても、家庭においてもいろいろなことを話します。私たちが実際に日々の生活の中で語っているそのことばのことです。聾者でしたら手から出ることばです。私たちが模範とならなければいけないというのは、単に、どのようなことば使いをしているかではなく、どのようなことを話しているか、どんな内容を話しているかにおいてです。私たちは普段どのようなことを話しているでしょう？パウロは私たちがどのようなことを話すべきかを、別の箇所では教えています。エペソ4：29「**悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。**」、私たちのことばは、クリスチャンであるなら、お互いの会話の中で「人の徳を高めること」を考えて話すべきだと言うのです。この「**悪いことば**」ですが、「**悪い**」ということばは「腐っている」という意味です。そこから派生して「**価値のないことば**」という意味があります。つまり、ここで使われている「**悪いことば**」とは「**無価値のことば**」、また、「**腐ったことば**」という意味です。ちょうど、箱詰めされた果物の中に腐ったものが入っていると、そこから周りの果物に悪影響を及ぼすように、その腐ったものが「**悪いことば**」だと教えるのです。

つまり、人に価値のないことを考えさせるようなこと、人に悪い影響を及ぼすような話をしてはいけなと、パウロは教えているのです。私たちがそのような話題を避けなければいけません。けれども、単に、私たちが悪いことを話していないかどうか気に気をつけなさいと言うだけではないのです。ここに書かれている通り、「人の成長に役立つことば」を話しなさいと教えるのです。ここでは「**必要なとき**」と書かれていますが、これは「時に適って、その時の必要に相応しく」という意味があります。つまり、相手にとって、相手の必要に合わせて相応しいこと、相手の成長につながることを話しなさいと教えるのです。それによって、聞く人に霊的な成長へとつながる恵みを与えているかどうか、そのことを考えなければいけません。パウロは人との対話において、気を配って人の模範なることを勧めています。私たちは周りの人に悪影響を与えるような、また、神が耳を覆いたくなる、そのようなことばを周りの人に与えていないでしょうか？それだけでなく、周りの人にその時に相応しいことばをかけ、聞く人の成長に役立つことばを与えているかどうかです。私たちが確かに、物質的な必要に関しては、相手の必要を満たそうと気を配ります。確かにそれは良いことです。けれども、ことばにおいてはどうか？ときとして私たちは、何も考えずに「ことば」を発してしまうことがあります。例えば、悲しいことですが、人が集まるとある人の悪い噂を耳にします。もし、私たちが人の噂をするなら、それは聞いている人に恵みを与えるものではありません。相手に無価値なことを考えさせ、また、悪いことを考えさせ

るからです。私たちは噂話をしようと考えていないかもしれませんが、上手にそれを正当化し、それはあなたのためになるから、この人のためになるからと言って、実はそうではないことを話している可能性もあります。私たちはよく考えなければいけません。教会の中では子どもたちは私たちが話していることばを聞きます。私たちはその子どもたちに話しているその内容が本当によい模範を示しているかどうかです。教会の中だけでなく、家庭においてはどうでしょう？子どもたちに教会では話さない悪い話題を平気で話しているようなことはないでしょうか？また、職場ではどうでしょう？パウロはテモテに、教会の人たちに対して、また、周りの人たちに対して、そのことばにおいて、語る内容において模範者となりなさいと教えているのです。

## 2. 生き方

生き方において模範となることです。4：12では「態度」と訳されていますが、これは「行動」、また「生き方」と訳すことが出来ます。先ほどの「ことば」と同様に、私たちの行動、生き方においても「正しい生き方」をもって模範を示すことが私たちに求められています。どのようにして私たちそのことが出来るのでしょうか？単に、人の目から見て良い行動をするというのではなく、私たちは教えられたみことばに添って生きて行かなければいけないということです。私たちはみことばをどれ程知っているかでなく、どれ程みことばに添って生きているのかが重要なのです。私たちは様々な機会にみことばを学び、そして、みことばを聞いていますが、問題は、どれだけ知っているかではなく、どれだけそれに添って生きているかです。私たちがどんなに「神さまを愛しています。神さまを信じています。日曜日は教会に来ています。」と言っても、私たちの生き方がみことばに添ったものでないなら、その発言に信頼を置くことは難しくなります。

パウロもそのことをよく分かっていたのでしょ。ですから、パウロはテモテに対して「あなたはその生き方をもって模範を示しなさい」と言ったのです。そのように要求したのは、周りの人たちがテモテを偽り者だと非難することがないように、むしろ、彼を認めるようになると、そのことを知っていたからです。それだけでなく、テモテの生き方、行動を通して、神が求めておられる生き方を具体的に周りの人に示すことが出来ると、そのことを知っていたゆえに、パウロは「生き方をもって模範を示しなさい」と言ったのです。私たちはことばでどのようにでも立派なことを言うことが出来るでしょう。けれども、私たちの生き方はどうか、ということをよく考えなければいけません。私たちの口で語られることばと、私たちの行動は本当に一致したものでしょうか？もし、私たちが生き方において模範を示すなら、周りの人たちは私たちに批判することは出来なくなります。

ペテロもパウロと同じことを教えています。Iペテロ2：12「異邦人の中であって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」、同じIペテロ3：16にも「ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。」とあります。私たちの態度が教会の中と外で違うなら、教会の中と家の中の態度が違うなら、家族はそれを見ます。特に、子どもたちはそれを見るでしょう。その違いに対して疑問を持ち、私たちに疑い、また、神を疑うようになります。そして、私たちに批判し私たちに反発するでしょう。たとえ、教会の礼拝堂で座って敬虔な態度をもって主を礼拝していたとしても、家の中で神を礼拝する様子もなく、また、神を愛する行動を子どもたちに見せることがないようなら、子どもたちに何を伝えることになるでしょう？日曜日に礼拝しているその神は大したことはないのだと、私たちのその生き方によって伝えていることにならないでしょうか？また、礼拝はそれ程重要なものではないということ子どもに伝えることにならないでしょうか？そのような生き方でも別に構わないのだということ教えていることにならないでしょうか？子どもに「日曜日には教会に行かなければいけない。神さまの前に正しいことをしなければいけない。」と言っても、私たちの生活、毎日の生活が主に喜ばれることを求めないで、また、自分の願いを優先して歩むなら、その生き方における模範は、子どもたちに家族に、友人たちに、また、会社の同僚たちに何を伝えることになるでしょうか？それは神は自分にとってそれほど重要な存在ではなく、自分の好きなことを優先しても構わないということです。そして、語っていることと生き方が矛盾していることを見て、私たちに批判し、その発言を軽んじます。パウロはそのことがよく分かっていたので、テモテに対して「あなたはことばにおいても、また、生き方においても模範を示しなさい」と命じたのです。同じように、私たちが生き方をもって周りの人たちに模範を示さなければいけません。

「ことば」と「生き方」において模範となるという二つのことを見て来ました。この二つのことは、表に出て来るものです。つまり、他の人から見て明らかに映し出されるものです。しかし、次に見て行く三つの模範は内面的なものです。けれども、これら内面にあるものは表に現われて来ます。なぜなら、聖書のみことばは「内にあるものが表に出て来る」と教えているからです。ルカの福音書6：45を見てください。「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら

人の口は、心に満ちているものを話すからです。」とあります。ですから、次から見て行く模範は、ことばや生き方に影響を与えるものです。

### 3. 愛

模範の三つ目は「愛」です。愛において模範となるということです。ここで使われている「愛」ということばは、皆さんがよく知っている「アガペー」ということばです。この愛は「無償の愛」です。本来、私たち人間は生まれながらに自分を愛する愛しか持っていませんでした。この無償の愛は神が私たちに示してくださった愛です。Iヨハネ4：9-10にはこのように記されています。「**神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。：10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。**」。私たち人間は元々神に造られたにもかかわらず、自らの選択で罪を選び、神に逆らう者となり、神に敵対する者となったのです。けれども、神はそのように敵である私たちをあわれんでくださって、イエス・キリストによってその罪を悔い改め信じる者の罪を赦し救ってくださったのです。本来、神にそのようなことをする義務はありませんでした。そのようにする必要があったのでもありません。けれども、それにもかかわらず、神は私たちに罪の赦しを与えてくださったのです。

神はイエス・キリストを通して私たちに犠牲的な愛を教えてくださいました。ゆえに、神から愛を受けた者はその愛を実践することが求められています。旧約の律法の中においても、神はそのことを命じておられます。レビ記19：18「**復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは主である。**」。また、イエスも救われた一人ひとりに愛を示しなさいと教えておられます。ヨハネの福音書13：34には「**あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。**」とあります。では、そのことを私たちが実践するときどのようになるのでしょうか？35節「**もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。**」と、私たちが互いに愛し合うことによって、周りの人たちは私たちがキリストに属する者であることを理解すると教えているのです。パウロもテモテに対して「キリストのように見返りを求めるような者ではなく、自ら進んで犠牲的に愛するというそのキリストの愛を周りの兄弟姉妹に示して行きなさい」と言います。それによって私たちの周りの人たちが私たちがキリストに属する者であることを知るだけでなく、神がどのように私たちを愛してくださったのかということを知るようになることを教えているのです。

私たちは愛することを知っています。しかし、どのようにして私たちは兄弟姉妹を愛するのか、その具体的な方法を真剣に考えなければ、「愛」を実践することは出来ません。イエスが私たちに示してくださった愛を見る時に、その具体的な方法を知ることが出来ます。イエスはどのように私たちを愛してくださったのでしょうか？明らかに、口だけでなく行動が伴っていました。また、そこには犠牲が伴っていました。そして、それは自ら進んでくださったものでした。また、その愛の対象に関しては、その範囲を決めていませんでした。イエス・キリストは敵をも愛しました。そのように、私たちもお互いの間でその愛を実践しなければいけないのです。このように私たちがお互いを愛することを実践して行く時に、周りの人たちは私たちがキリストに属する者であると知るだけでなく、神がどのように私たちを愛してくださったのかという模範を具体的な形で示すことが出来るのです。

先ほど言ったように、「愛」は確かに内面的なものです。けれども、内にあるものが「ことば」にも「生き方」にも現われて来ます。ですから私たちは、パウロがテモテに愛において人々の模範となりなさいと勧めたように、私たちもことばにおいて生き方において、また、愛において模範者となって行かなければいけません。

### 4. 信仰

次に見るのは「信仰」において模範となることです。皆さんご存じの通り、神に信頼するという生き方をもって模範を示しなさいと教えているのです。つまり、どのような時でも、神のみことばに忠実であるという模範を周りの人たちに示しなさいと教えているのです。自分の思い通りに事が進んでいる時に、神に対する信頼、みことばに対する忠実さを保つことは比較的容易なことではないでしょうか？けれども、苦しみにぶつかった時にどのように神に信頼するのか、困難な時にどれだけみことばに忠実であるかということは、非常に難しいことかもしれません。このことは最近の礼拝メッセージで皆さんもよく学んでおられることです。このことは非常に重要です。パウロもこれが重要であることを知っていたので、テモテに対して信仰において模範となりなさいと勧めたのです。それによって、周りの人たちが、どのような時にもテモテが神を信頼し神に忠実であることを見ることによって、若い自分たちの指導者であるテモテを信頼することが出来るようになります。また、人々が具体的に神を信頼して行く生き方をテモテを通して見る事ができるゆえに、パウロはテモテに対して「信仰においても模範となり

なさい。」と勧めたのです。

それだけでなく、テモテが神を信頼することによって、偽りの神ではなく、まことの生ける神にこそ信頼を置くべきであるということ、そして、この神こそが信頼に値する方であることを周りの人たちに気付かせるのです。そのためにも、パウロは模範者となりなさいと勧めたのです。パウロはこれから大変な時代になって行くことを知っていました。それゆえに、みことばを学んで神がどのような方であるのかを知っているテモテに対して、その神を信頼して歩みなさいと教えるのです。私たちも同じように、様々な機会にみことばを学んで、神がどのようなお方かを知っています。問題は、その神に私たちが本当に信頼を置いているかどうかです。神が語られるみことばに信頼を置いて歩もうとしているかどうかです。私たちは多くの場合、物事が順調に進んでいる時は神に従っていると考えがちです。けれども、私たちは順境のときほど神に信頼していないと言うこともできます。私たちは小さな選択に至るまで、いつも神に信頼しているのでしょうか？小さな選択から大きな選択に至るまで、私たちはみことばに忠実に歩むことが必要です。パウロがテモテに勧めたように、様々な選択の中にある私たちにも信仰において模範となることを勧められているのです。もし、私たちが家庭や仕事場において、神に信頼して生きて行かないその様子を見せるなら、その模範は家族に、また、周りの人たちにどのようなことを伝えているのでしょうか？もう皆さんお分かりのように、それは周りの人たちに、私たちが信じている神は信頼するに値しない方であるということを伝えていることとなります。私たちの周りには神と名の付くものと何も変わらないということを伝えていることとなります。何の希望も与えることの出来ない、小さい弱々しい神だということを周りに伝えてしまうこととなります。

そうではなく、私たちは家庭においても仕事場においても、どこにおいても主を認め、主を信頼するなら、すなわち、みことばに信頼しみことばに従って生きて行くなれば、周りの人たちに聖書に書かれている神こそがまことの神であり、最も信頼すべき方であることを、生き方をもって、私たちの模範をもって示すことになるのです。

## 5. 純潔

ことばにおいて、生き方において、愛において、そして、信仰において模範となることを見て来ました。最後に見るのは「純潔において模範となる」ことです。この「純潔」ということばは、同じIテモテ5：2では「混じりけのない」ということばが使われています。「**年とった婦人たちには母親に対するように、若い女たちには真に混じりけのない心で姉妹に対するように勧めなさい。**」。このことばは元々「聖い」ということばから派生しています。この「聖い」とは最高の聖さを表わすもので、神の聖さを表わします。でも、ここでは特に「性的聖さ」に関して、パウロは模範となるようにと勧めているのです。パウロはこの性的な聖さに関して、「純潔」ということをテモテの生き方をもって示しなさいと命じているのです。なぜなら、このエペソという町は非常に大きな町で、この町の中にはアルテミスの神殿がありました。このアルテミス神殿には女神が祀られていました。この女神は獣の守り神、また、多産の神として祀られていました。それゆえに、このエペソの町では不道德な行為が多く行われていたと言われていました。そのような異教の不道德がはびこる町の中であって、聖別された者として、クリスチャン、そして、テモテは世の人、町の人たちとは違う生き方を求められていました。ですから、テモテは人々に神が何を求めておられるのかを、彼自身の生き方をもって模範を示す必要があったのです。聖い神は人々に純潔で聖い生き方をするようにと求めているということを教えるのです。ですから、パウロはテモテにその純潔において模範を示しなさいと教えるのです。

特に、パウロはこの手紙の中で、異教徒の中では当たり前になっていた多重婚、多くの女性と結婚するというそのような習慣において、クリスチャンはそうではないと教えています。このことは監督の条件の中でも教えていることです。Iテモテ3：2「**ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、**」、長老に対してもテモテ自身に対しても「**聖くあること**」を求めたのです。私たちが住んでいるこの世界も、同じように不道德に満ち溢れています。私たちはその中で、神の聖さを生き方をもって示すことをここで求められているのです。私たちが聖さを求めて生きるなら、その模範を通して、周りの人たちに神の聖さを現わし、神が人々に聖さを求めているということを伝えることが出来るのです。このことに関してはいろいろな例を考えることが出来ますが、例えば、家庭においてテレビを見ている時に、不道德な番組の内容が放映されているのを子どもとっしょに喜んで見ていないでしょうか？もし、喜んでいるのであれば、私たちは聖さにおいて模範を正しく示していないこととなります。様々な機会にその聖さをどのように現わすのかということを、私たちは注意して考えなければいけません。

ことばにおいて、生き方において、愛において、信仰において、そして、純潔ということにおいて、周りの人たちの模範となって行く時、どのようになって行くのでしょうか？最初に話したように、もし、良い模範を示さない時、つまり、口で語ることと行動が矛盾しているなら、当然、周りの人たちから見

るなら、その人は偽り者であり、信頼に値しない者です。人々に信用のない人、また、偽りを言う人の発言は、信頼がないために、重要ではないと見られ、かつ、非難されてしまいます。いくら正しいことを伝えようと願ってそれを伝えても、周りの人たちはそのことばに重きを置きません。人々はそのことばを退け、間違った方向に歩いて行きます。

けれども、反対に良い模範、正しい模範を私たちが示すことによって、周りの人たちは私たちクリスチャンが神の前に正しい歩みをしているということを見て、私たちを信頼するようになります。ですから、パウロがテモテに勧めたように「模範となりなさい」と、私たちはここから教えられます。そして、このことは霊的リーダーにだけ求められているのではなく、すべての人に求められています。どの世代の人でも同じようにしなければいけないのです。例えば、テトス2：3-5にはこのように書かれています。「同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。：4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、子どもを愛し、：5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」、先輩の婦人の方々が若い世代の婦人たちにさとすことができると言うのです。どのようにして出来るのでしょうか？ここに書かれている通りです。模範を示すことによってです。「模範を示すこと」はだれに対しても求められていることです。また、今のこの時代においても神が求めておられることは変わっていません。ですから、今の私たちにも同じことが求められています。

私自身、子育ての初心者です。多くの信仰の先輩のアドバイスが必要です。同時に、具体的な模範が必要です。どのようにするのでしょうか？それは周りにいる信仰の先輩との交わりが必要なのです。私自身、最近、そのこと、その必要を教えられました。ですから、私自身も信仰の先輩方からことばをもってアドバイスを受け、また、その生き方、その模範を見ることを通して学びたいと思っています。同時に、私自身が周りの人たちの模範者とならなければいけないと思うのです。私たちが自分の周りにいる人たち、特に、家族にみことばを正しく伝えようとするのであれば、まず、私たちが模範者とならなければいけません。パウロが言うことは「みことばを伝えるのであれば、正しいことを伝えようと思うのであれば、まず、あなたが模範を示しなさい。」ということです。このように教えているのです。周りの人たちが、私たちの生き方を見て、そして、私たちを信頼して、私たちが語ることを正しいことばとして、その教えを受け入れることができるようにと。もし、私たちがみことばを正しく教えて行くなら、私たちは「**キリスト・イエスのりっぱな奉仕者**」になるのです。そのようにパウロが教えています。

私自身も含めて、ぜひ、クリスチャンである私たち一人ひとりが、みことばを実践し、周りの人たちへの良き模範者となり、そうして、キリストのりっぱな働き人になってほしいと願います。